

## 踏み跡 < My mountains >

奥多摩	御前山から浅間尾根へ	No. 005
-----	------------	---------

五万分の一地形図「五日市」をじっくり眺めているうちに、行ってみたい山が沢山出てきた。名のある山ばかりでなく、妙な形をしている稜線や、やけに長く伸びる尾根などが気になった。地形図をよくよく眺めて見れば当然なことながら、尾根を形成するのは沢であり、谷であり川であることに気づく。奥多摩の山は多摩川やその支流の秋川の流れが深く関与している。

御前山(1405m)・三頭山(1527.5m)やそこから伸びる興味深い尾根が沢山出てきた。その中のひとつが北秋川と南秋川に挟まれた「浅間尾根」と、南秋川と桂川水系の谷に挟まれた笹尾根。笹尾根は別名「甲武相国境尾根」とも言われ三つの県にまたがる県境の長い長い稜線。いつの日にかここを歩いて見たいと思い、手帳にメモした。

奥多摩の山歩きの手始めとして、御岳山・大岳山を歩くと、どうしてもその西に連なる鋸山・御前山が気になる。まずは「御前山」に登ってみようと思い、下山路として浅間尾根を使うプランを思いついた。初めての単独行になるし、歩行時間も長くなるので、水や食料にも気を配る必要がある。

昭和 36 年 8 月 12 日

首都圏の鉄道では週末に各路線で山岳夜行列車(電車)を走らせていた。中央線の東京駅発23時55分の臨時電車「大菩薩号」は、乗換えなしで氷川まで行くことができる。一泊せずに(日帰り)早い時間から歩き始めるのには最適なので、利用してみることにした。

昭和 36 年 8 月 13 日

氷川駅に着いたのは2時10分。ひと休みしながら身支度を調べて、水を汲んで2時40分に出発。

小河内ダムに向かう青梅街道を西へ向かう。折悪しくも新月だろうか、闇の世界。

境で青梅街道を離れて、南へ栃寄への道に入る前に一回目の腹ごしらえ。時計を見ると3時20分。

固形燃料(メタ)で湯を沸かしてインスタントコーヒーとカンパン。35分の休憩で力を得て、これから始まる登りに備える。

栃寄の集落で出会ったおばさんが、御前山の山頂で茶店を開いていると言うので、登頂後の再会を約して一歩先行したのだが、途中で道を間違えて行きつ戻りつしている内に二時間もロスしてしまった。

御前山頂上8時50分着。道を間違えている内におばさんは先に着いてしまったようだ。奥多摩三山のひとつに数えられる御前山(1,405m)、朝食を食べて一時間の休憩。霞がかかったような空で、富士山は見えず、奥秩父方面も大菩薩方面もはっきり見えない。

小河内峠は秋川の谷から小河内村へ向かう峠道だった所。ダムの底に沈んだ集落のことを思いながら通過。月夜見山11時50分、丁度良い時刻で昼食。お湯を沸かして、インスタントラーメンにカンパンそして食後のコーヒー。狭い頂上は静かで、風の音しか聞こえない。前方に風張峠、右手に奥多摩湖を見下ろしながらの歩きは素晴らしい。

風張峠から東に伸びる稜線が浅間尾根と呼ばれ、北秋川と南秋川に挟まれている。浅間尾根に入ると稜線の南側を巻くところが多くなり遠望も楽しめなくなったが、大沢山からは北にどっしりした御前山が、「さすが御前山」と言いたくなるような面構え。

北秋川の方には御前山、鋸山、大岳山と続き、南秋川には甲武相国境稜線(笹尾根)が三頭山を頭に長々と横たわっている。

時計を見ながらの意志決定、浅間峰から北秋川の小岩へ下ることにした。

小岩集落のバス停に着いたら、バスが出てしまったあとだった。今16時25分、次のバスは19時過ぎまで来ないことがわかり落胆。しかし待っているのでは芸がないので、少しずつ歩を進めることにして、水を飲んで

